

令和5年4月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和5年4月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

7月15、16日に「八戸七夕まつり」が開催されることが決まりました。

八戸七夕まつりは1950年から行われてきた恒例行事で、三日町と十三日町が目抜き通りを会場に飾られる色とりどりの吹き流しは、市民に本格的な夏の到来を告げてきました。

新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの開催となるため、中心街のにぎわいづくりに期待が高まっています。

さて、4月1日付けで、当事務所の所長が次のとおり変更となりました。令和5年度は、所長の番沢、主事の前田、事務員の浜井の3人体制となります。

引き続き、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

| | 新 | 旧 |
|----|---|--|
| 所長 | ばんざわ けいじ 番沢 啓司 財政部 (旧職名) 契約検査課 副参事 (工事契約グループリーダー) | まつはし たいすけ 松橋 大輔 観光文化スポーツ部 (新職名) 長根屋内スケート場 副参事 (企画運営グループリーダー) |

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 4月号 レポート

令和5年3月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

| 記事 | 概要 |
|-----|-------------------------------|
| (1) | はちまちLINE開設 中心街の情報発信へ |
| (2) | 旧柏崎小跡地の山車展示・制作施設 2023年度工事着手へ |
| (3) | 八戸市美術館 建築学会東北支部 東北建築賞受賞 |
| (4) | 八戸水産アカデミー 専門部会を設立 つくり育てる漁業推進へ |
| (5) | 八戸市「振興ビジョン」策定 中小の経営強化、創業支援 |

【産業】

| 記事 | 概要 |
|------|--------------------------------|
| (6) | 八戸前沖さば 制度開始以降初 認定見送り |
| (7) | ぐるなび（東京）運営、東北初進出 全国の看板メニュー提供 |
| (8) | 地酒発信へ 青森県内4酒造コラボ商品 素材統一「飲み比べて」 |
| (9) | 12月宿泊者数回復 コロナ前と同水準に |
| (10) | コンテナ取扱量5万本超 八戸港22年 8年連続突破 |
| (11) | プライフーズ 処理、加工工場整備 八戸地域の拠点網再編へ |

【地域】

| 記事 | 概要 |
|------|------------------------------------|
| (12) | 未来の起業家へエール 理容師の佐々木さん（八戸）週末は飲食店運営 |
| (13) | 八戸圏域の魅力アピール 8baseでふるさと気分 赤井さん夫妻ゲスト |
| (14) | 八戸せんべい汁「100年フード」に 文化庁37府県70件認定 |
| (15) | 八戸市教委調査報告書 蕪島のウミネコ繁殖 アブラナ相関関係ない？ |
| (16) | JAMSTEC 八戸を先行モデルに 海洋への理解促進、人材育成 |
| (17) | 佐々木瑞貴さん（八高専5年） 皮膚がんの診断装置開発で独創研究学生賞 |

【文化・スポーツ】

| 記事 | 概要 |
|------|-----------------------------|
| (18) | YSアリーナ八戸 9月に初の国際大会開催 |
| (19) | 迫力演技に圧倒 市川團十郎襲名披露八戸公演 |
| (20) | レスリング女子 類家選手（長者中出身）、伊調さんの下へ |

【行政】

| 記事 | 概要 |
|-----|--|
| (1) | <p>はちまちLINE開設 中心街の情報発信へ</p> <p>八戸市は3月4日、中心街の情報発信に向け、通信アプリLINE(ライン)に公式アカウント「はちまちLINE」を開設した。市が取り組む「八戸AI(アイ)中心街・バス活性化プロジェクト」の一環で、運営は中心街に関する情報サイト「はちまち」を手がける「金入」が担う。飲食店や商店などの検索が可能で、様々なイベント情報、街歩きに役立つマップなども掲載。中心街の参加店で利用できるデジタルクーポンの発行やスタンプラリーなども実施し、アプリを通じて街中のにぎわい創出を目指す。</p> |
| (2) | <p>旧柏崎小跡地の山車展示・制作施設 2023年度工事着手へ</p> <p>八戸市は、旧柏崎小学校跡地に整備を計画する山車展示・制作施設6棟と広場について、計画が順調に進めば、2023年度に山車施設の建築に着手すると明らかにした。施設建築に1年、広場の実施設計に1年、整備にさらに2年かかる見通し。山車小屋は鉄骨作り平屋で床面積は1棟約150平方メートル。制作過程の見学やお囃子体験も可能で、それぞれ倉庫兼休憩室も設ける。広場は多目的広場や公園施設、トイレなどの機能を備える想定。施設には祭り継承に加え、地域コミュニティの拠点としての役割も持たせ、市民や観光客が集う場にしたい考えだ。</p> |
| (3) | <p>八戸市美術館 建築学会東北支部 東北建築賞受賞</p> <p>日本建築学会東北支部は、建築文化や環境形成に貢献した建築物を表彰する「東北建築賞」に、八戸市美術館など5作品を選出した。市内では「はっち」、市立西白山台小に続く受賞。審査では、「ジャイアントルーム」とよばれる開放的な空間や、大小さまざまな展示スペースを備え、市民が気軽に制作活動を行うことができる点などが評価された。市美術館の高森副館長は「利用してもらっている市民と共に受賞したと思っている。今後の活動の励みにしていきたい」と話した。</p> |
| (4) | <p>八戸水産アカデミー 専門部会を設立 つくり育てる漁業推進へ</p> <p>八戸市は3月20日、水産業の未来を考える「八戸市水産アカデミー」内に、養殖業に関して検討を進める「つくり育てる漁業専門部会」を設立した。水揚げ量の減少に苦しむ市の水産業の振興策として「養殖」に着目。3年後、5年後、10年後の目標をそれぞれ設定し、最終的には養殖魚の地域ブランド化も目指し、水産基盤の安定につなげる。今後は、魚種の選定や養殖の形態を考えるほか、有識者らを招いた講演会、先進事例の調査研究などを行い、事業化に向けた本格的な検討に入る。</p> |
| (5) | <p>八戸市「振興ビジョン」策定 中小の経営強化、創業支援</p> <p>八戸市は3月23日、地元中小企業の持続的な発展に向けた将来像や施策を示す「中小企業・小規模企業振興ビジョン」を発表した。計画期間は2023～26年度の4年間。コロナ禍や物価高といった社会情勢の影響を受ける地域経済の再生・回復に向け、企業の「経営基盤の強化」「経営革新、創造的な事業活動や創業の促進」「販路拡大」など八つの施策を推進する。事業の進捗状況は、有識者らで構成する中小企業・小規模企業振興会議で確認する方針。</p> |

【産業】

| 記事 | 概要 |
|------|---|
| (6) | <p>八戸前沖さば 制度開始以降初 認定見送り</p> <p>「八戸前沖さばブランド推進協議会」は、今季の八戸前沖さばブランド認定を見送ることを決めた。八戸港の記録的な不漁に加え、脂乗りやサイズも不十分で、認定に見合うサバの水揚げが乏しいと判断。八戸前沖さばは、協議会が認定する期間内に三陸以北で漁獲し、八戸港に水揚げしたサバ。期間は魚体の脂肪分や重量などから判断する。見送りは制度開始以降初めて。見送りによって、八戸前沖さばを原料に使用する加工業者や飲食店は当面、昨季以前の在庫を活用せざるを得ない。</p> |
| (7) | <p>ぐるなび（東京）運営、東北初進出 全国の看板メニュー提供</p> <p>飲食店情報サイトを運営する「ぐるなび」（東京）が、八戸市のラピアに東北地方初となる店舗開発事業に取り組む。ぐるなびの独自のネットワークを活用して全国の飲食店の看板メニューなど魅力的な食を提供する「GURUNAVI FOODHALL WYE 八戸」（ぐるなびフードホールワイはちのへ）を5月末、1階グルメストリートに開設する予定。面積は約265平方メートル。同社開発品も含め、約40種類のメニュー展開を見込む。事業は2021年にスタートし、八戸は全国で4カ所目となる。飲食店は店舗を構えずに販路拡大でき、施設側は全国各地の食を提供可能となる。</p> |
| (8) | <p>地酒発信へ 青森県内4酒造コラボ商品 素材統一「飲み比べて」</p> <p>八戸市の八戸酒造、青森市の西田酒造、十和田市の鳩正宗、弘前市の三浦酒造の青森県内4酒造は、地酒発信プロジェクト「あおりAQE（Aomori Quattro Esperanza）」第3弾として、「純米 HANAFUBUKI 70」を発売している。同プロジェクトは、昨年3月に始動し、東京でイベントを開催するなど地酒の魅力を県外に発信して好評を博している。今回はオール県産と低価格をコンセプトに、県の酒米「華吹雪」と県オリジナル酵母「まほろば醇」を使用し、精米歩合、ラベルなどを統一した商品を発売する。関係者は飲み比べて各酒造の特徴を楽しんでほしいとアピールしている。価格は1本720ミリリットルで税込み1485円。各4800本の出荷予定で県内外の特約店約80店で販売する。</p> |
| (9) | <p>12月宿泊者数回復 コロナ前と同水準に</p> <p>八戸市は3月16日、市内の観光、宿泊への新型コロナウイルスの影響調査結果を明らかにした。主要ホテル22施設の直近3カ月分（2022年11月～23年1月）の宿泊者数を見ると、22年12月は6万4178人で、19年実績の6万4146人と同程度に回復。11月と1月も19年度同期の9割以上まで改善し、人流が増加した傾向がうかがえた。今後の見通しについて市観光課は、新型コロナの「5類」移行や、青森県おでかけキャンペーンの延長などを踏まえ、回復の動きは加速するだろうとの見方を示した。</p> |
| (10) | <p>コンテナ取扱量5万本超 八戸港22年 8年連続突破</p> <p>青森県八戸港管理所は3月23日、2022年の八戸港のコンテナ貨物取扱量（速報値）を公表した。年間取扱量（20フィート換算、空コンテナを含む）は5万1405本となり、8年連続5万本の大台を突破した。新型コロナウイルスの影響による世界的な経済活動の停滞に加え、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する資材や原油の価格高騰などを背景に、前年比6.8%の減。内訳は、輸出・移出が2万5938本（4.8%減）、輸入・移入が2万5467本（8.7%減）。実入りコンテナの取扱量が、輸出入共に減少したが、空コンテナは、微減したものの前年並みの水準を維持した。</p> |

| | |
|------|---|
| | プライフーズ 処理、加工工場整備 八戸地域の拠点網再編へ |
| (11) | プロイラーの生産や鶏肉加工品の製造、販売を手がける「プライフーズ」（八戸市）が、八戸地域にある拠点網を再編し、鶏の処理工場と加工食品工場を新たに整備する計画を進めていることが分かった。主力の三沢の工場は今後も活用し、既存工場の統廃合を検討している。新工場の立地場所は八戸から半径20キロ以内を軸に、一定の雇用が確保できるエリアから選定。処理工場は3年以内、加工工場は5年以内の整備を目指す。少子高齢化により多様な産業で人手不足が顕在化する中、大規模な設備投資で省力化を図る考え。 |

【地域】

| 記事 | 概要 |
|------|---|
| (12) | <p>未来の起業家へエール 理容師の佐々木さん（八戸）週末は飲食店運営</p> <p>八戸市沢里二ツ屋に昨年11月にオープンした飲食店「キッチンブル」。営業は金曜と土曜だけだが、地域で徐々に浸透し、新たなにぎわいを創出している。運営するのは、近くで「理髪晴」を営む理容師の佐々木敏治さん。元々飲食店だった空き店舗を活用し、異業種に参入した。本業のかたわら、友人らと食と音楽を組み合わせた野外イベントを開催するなど、まちに新たな風を吹き込んできた。週末の営業日以外の平日は希望者が“お試し営業”できるチャレンジショップとして貸し出すなど、地域の活性化と起業や独立を検討する人の支援もしている。</p> |
| (13) | <p>八戸圏域の魅力アピール 8baseでふるさと気分 赤井さん夫妻ゲスト</p> <p>八戸圏域ファンミーティング「ふるさと気分」の第19回が2月26日、東京・内幸町の八戸都市圏交流プラザ「8base」（エイトベース）で開かれた。元プロボクサーで俳優の赤井英和さんの妻佳子さん（八戸市出身）がゲストで登場した。40万人超のフォロワーを持つ佳さんはツイッターで英和さんの日常を発信して話題となっており、会場には英和さんも飛び入り参加しツイッターで紹介している英和さんの素顔なども語られた。佳さんは種差海岸をはじめ風光明媚な情景を紹介するなど地元をアピールした。</p> |
| (14) | <p>八戸せんべい汁「100年フード」に 文化庁37府県70件認定</p> <p>文化庁は、地域に根付く食文化をPRする「100年フード」に、八戸せんべい汁や横手やきそば（秋田県）など37府県の70件を認定したと発表した。郷土料理などが対象で、江戸時代以前から伝わる「伝統」部門では八戸せんべい汁のほか、ほうとう（山梨県）など計45件が認定された。明治・大正から続く「近代」は名古屋コーチンの食文化（愛知県）など9件。昭和以降に生まれ今後100年の継承を目指す「未来」は、横手やきそばや四日市とんてき（三重県）など16件を選出した。八戸せんべい汁は、地域色が豊かで観光振興への活用がモデルとなるとして特別賞にも選ばれた。</p> |
| (15) | <p>八戸市教委調査報告書 蕪島のウミネコ繁殖 アブラナ相関関係ない？</p> <p>八戸市教育委員会は、同市鮫町のウミネコ繁殖地・蕪島で令和4年度に実施した環境調査報告書をまとめた。これまで、密集したアブラナ（ナタネ）の茎や葉が、ウミネコが巣を行き来する際の妨げになるのではという考えから成育などに悪影響を与える可能性が指摘されてきたが、草丈の長さや巣立ち率には相関関係がなく、条件によっては、密度が高い方がひなの生存に好影響があったとのデータが明らかになった。これまでの見立てと相反するような内容とも取れるが、市教委は令和5年度も調査を続ける方針で、繁殖地としてより望ましい環境の構築を目指す。</p> |

| | |
|------|--|
| | JAMSTEC 八戸を先行モデルに 海洋への理解促進、人材育成 |
| (16) | 科学や数学、芸術など各教科での学びを総合的に活用し、課題を発見・解決する能力を育む「STEAM（スチーム）教育」の推進に向け、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）は3月15日、海洋STEAM教育用の教材を令和5年度から八戸市で先行的に運用し、モデルケースを構築する方針を明らかにした。八戸港に停泊していた地球深部探査船「ちきゅう」をはじめとするさまざまな調査・観測で得られた豊富な画像やデータを活用することで学習指導要領とひも付けた教材を作る。授業を通して改善を図った上で全国へと発信し、子どもの海洋への理解促進や人材育成につなげたい考えた。 |
| | 佐々木瑞貴さん（八高専5年） 皮膚がんの診断装置開発で独創研究学生賞 |
| (17) | 日本機械学会東北支部が主催する「第53回学生員卒業研究発表講演会」で八戸高専機械システムデザインコース5年の佐々木瑞貴さんが、皮膚がんの診断装置開発に関する研究について発表し、独創研究学生賞を受賞した。佐々木さんらの研究グループは、正常な細胞とがん組織で熱の伝わり方が異なることに着目し、皮膚がんの診断に応用する新装置の開発を弘前大、電子部品メーカーなどと進めている。佐々木さんは、血管の位置や血流速度などが装置の診断結果に及ぼす影響について研究。コンピューターシミュレーションで、血流が早いほど実際の数値と差異が生まれることなどを明らかにした。 |

【文化・スポーツ】

| 記事 | 概要 |
|------|---|
| | YSアリーナ八戸 9月に初の国際大会開催 |
| (18) | 八戸市は、スピードスケートのジュニア国際大会「アジアンオープントロフィー」（9月30日～10月1日）の会場が、YSアリーナ八戸に決まったと発表した。同大会は、アジアスケート連盟が主催する初開催の大会で、参加対象は9～16歳の男女。参加選手はアジアの約15カ国から150人程度を見込んでいる。すでに開催が決まっている来年2月3、4日の「ジュニアワールドカップ」最終戦、同9～11日の「世界ジュニア選手権」と合わせ、2023年度にYSアリーナ八戸で開かれる国際大会は計3大会となった。 |
| | 迫力演技に圧倒 市川團十郎襲名披露八戸公演 |
| (19) | 歌舞伎の大名跡を受け継いだ市川海老蔵改め十三代目市川團十郎白猿（はくえん）さんによる、襲名披露巡業八戸公演が3月23日、八戸市公会堂で開かれた。市川團十郎は江戸歌舞伎の中心として約350年受け継がれてきた、最も権威あるとされる名跡。海老蔵さんが昨年10月に襲名し、父である十二代目が亡くなって以来9年ぶりに復活した。演目は代々の團十郎が得意とした「歌舞伎十八番」のうち、屈指の人気を誇る「勸進帳」。およそ4年ぶりに来八した梨園のトップスターは、数々の見せ場で観客を魅了し、迫力ある演技で圧倒した。 |
| | レスリング女子 類家選手（長者中出身）、伊調さんの下へ |
| (20) | レスリングの全日本選手権女子65キロ級で2018、19年と連覇した類家直美選手（八戸市出身、愛知・至学館大）が今春、練習拠点を東京に移し、五輪4大会連続金メダルの伊調馨さん（同市出身、ALSOK）の下で五輪を目指していくことになった。類家選手は高校3年だった18年に全日本選手権で初優勝。大学時代も19年優勝、20年2位など安定して上位に食い込んでいる。3月の国際大会「ダン・コロフニコラ・ペトロフ大会」（ブルガリア）の女子65キロ級でも頂点に立った。大学を卒業する今春からは「レスターホールディングス」（東京）に所属し、練習拠点も伊調さんが指導に当たる日体大に移している。 |

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主事] 前田 哲 [事務員] 浜井 章代

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



送付先

八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。